校 内 研 修 計 画

甲州市立松里中学校

1 学校課題

本校は学校教育目標「自ら求め、学び、拓く生徒の育成」のもと、教職員一丸となって生徒の主体的な学習活動を支援している。生徒は授業や生徒会活動に意欲的に取り組み、伸び伸びと成長を続けている。授業には真摯に向き合い、一生懸命取り組むことができるが、自己表現や粘り強く学び続けることには課題が見られる。授業は学校生活の基盤であり、生徒が主体的に学ぶ姿勢を養うことは、豊かな学校生活を送る上で不可欠である。今年度、研究主題「自ら求め、学ぶ生徒の育成」のもと、職員の「子供主体の授業づくり」へのさらなる授業改善とクラウド環境の有効活用を推進するとともに、生徒一人ひとりの興味関心に基づいた学びを深め、主体的な学びを引き出す教育を目指すことを確認した。そして、個別最適で協働的な学びを通し、生徒の探究心や思考力を育成していく。また、生徒が自ら学びに向かう意欲を高められるような「学びの基盤づくり」を着実に進めていき、生徒一人ひとりが未来を拓く力を育めるよう、学校全体で教育活動を推進していきたい。

2 研究主題

「自ら求め、学ぶ生徒の育成」

～探求的な学びを通して、主体的に学習に取り組む生徒の育成～

3 主題設定の理由

現代は、AIの発展やグローバル化、環境問題の深刻化などにより、正解が一つではない課題や変化し続ける問題が増えている。こうした社会では、知識を覚えるだけでなく、主体的に考え、判断し、行動する力や課題を自ら見いだし解決する力が求められる。

そのためには、「主体的・対話的で深い学び」を通して、単なる知識の習得にとどまらない、理解の深まりや活用力を重視した「学びの質」の向上が重要である。その中核となるのが探究的な学びである。探究的な学びを通して、自ら問いをもち、情報を収集・整理・分析し、他者と協働しながら考えを深めることで、思考力・判断力・表現力は高まっていくと考える。

以上のことから、生徒が自ら問いをもち、学びの質を高めながら主体的に学び続ける力を育成したいと考え、本主題を設定した。

4 研究の具体的な内容と方法

（1）学びのつながり・学びの広がり・学びの深まり

①子供主体の授業づくりを目指した一人一実践

子供主体の授業づくりを目指し、学習形態や学習環境、学習内容を選択できるような複線型の授業づくりを行いたい。生徒一人ひとりが問題解決にむけての目的意識をもち、問題発見・解決能力を伸ばして、「見方・考え方」を働かせることで言語能力や思考力・判断力・表現力等も高められるような授業の在り方を探っていく。そして、教科等の目標を実現するとともに、情報活用能力の向上を図りたい。

②探求的な学びの推進

日々の学習において、「探究のサイクル（課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り）」を繰り返すことを通し、指示を待つのではなく、自ら考え学んでいく主体性を育んでいきたい。また、多様な情報の中から必要なものを選び取り、本質を見極める批判的思考力の育成を図る。さらに、仲間との対話や協働、振り返りの充実を通して、学びをより確かなものとしていく。加えて、授業時数特例校としての特性を生かし、教科横断的な視点に立った探究的な学びの一層の充実と、特色ある教育活動の推進に努める。

（2） 学びの基盤づくり

①５C を意識した 5ba の取り組み

松里中学校で大切にしたい5C「communication（言葉の力 対話）」「challenge（ゴールへ 挑戦 継続）」「curiosity（やってみよう 好奇心）」「co-operation（協働 切磋琢磨）」 「community（地域連携 貢献 誇り）」を身に付けるために、5 つの取り組みを行いたい。「夢をかなえる」ための「場」として「5ba」に取り組み、学びの基盤づくりを行いたい。

Nobiruba （長期休みやテスト前の学習の場）
Nobasuba （興味あることを学ぶ場）
Manabinoba （目的をもって取り組むプロジェクト）
Souzounoba （学んだことを発表する場）
Musicnoba （全校合奏の取り組み）

②WEBQU の実施と結果分析

学級・集団づくりの質の向上のため、WEBQU を実施し、学級経営に活かしていく。「人」や「もの」を大切にする心を育て、仲間とのつながりを意識した学級経営を模索し、「感謝」の気持ちを伝え合える安心感や信頼感のある人間関係（相互依存）の構築を図る。

（3） 授業時数特例校制度の活用

日常的に英語に触れることのできる環境を整備し、学校生活のさまざまな場面に英語を積極的に組み込んでいく。さらに、ALT との関わりを意図的に増やし、実際に英語を使ってやり取りをする機会を最大化することで、生徒が自らの考えを発信する力を高めるとともに、主体的に学びに向かう力の育成を図る。

年 間 校 内 研 修 計 画

回	月 日	曜	研 究 内 容	備 考
1	4月 6 日	月	昨年度の成果と課題、今年度の方向性の提案	全体
2	4月 22 日	水	今年度の方向性の提案②	全体
3	5月 27 日	水	ＱＵ分析について 探求のサイクルについて	全体
4	6月 29 日	月	QU 分析① 研究授業に向けた指導案検討	全体
5	7月 13 日	月	授業づくりについての実践発表	全体
6	8月 26 日	水	探求のサイクルについて	全体
7	9 月28 日	月	探求的な学習の成果、課題についての共有	全体
8	10月26 日	月	研究授業に向けた指導案検討 QU 分析②	全体
9	11月 26 日	木	探求のサイクルの成果と課題の共有	全体
10	12 月 4 日	金	授業づくりについて実践発表	全体
11	1 月 7 日	水	今年度のまとめ反省アンケート	全体
12	2月24日	水	今年度のまとめと来年度の方向性 研究紀要について	全体

（研究主任 内田 英太）